

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 HOPE プロジェクト

1 事業の趣旨・目的：日本語を学ぶ機会に恵まれない人たちに 日本語学習のきっかけを与えて 修了後、夜間高校あるいは専門学校 あるいは就職へと繋いでいく。

- ・生活で役立つ日本語を中心に、社会に溶け込むためのコミュニケーションに役立つ表現を特に会話中心に学習。ひらがな・カタカナを習得

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2010.5.15	広島 YMCA 専門学校会議室	高野 亨・池田 千恵 美・近 藤 妙子・高良マルシア・二口とみゑ	講座開設にあたって	・講座の目的、目標の確認 ・受講者の定員は？クラスはいくつにするか？（昨年度予想外に受講者が増えた。）
2010.9.18	広島 YMCA 専門学校会議室	高野 亨・池田 千恵 美・近 藤 妙子・高良マルシア・二口とみゑ	チラシ(案)作成 翻訳依頼 広報依頼 依頼文作成等	チラシの原稿作成 中国語、韓国語、伯語、英語での翻訳を依頼する。 マスコミにも広報依頼。
2010.10.16	広島 YMCA 専門学校会議室	高野 亨・池田 千恵 美・近 藤 妙子・高良マルシア・二口とみゑ	指導のコースデザイン、カリキュラムについて	ちらしの発送、中国新聞 他マスコミに広報依頼 国際センター、公民館等 チラシ置く
2010.12.11	広島 YMCA 専門学校会議室	高野 亨・池田 千恵 美・近 藤 妙子・高良マルシア・二口とみゑ	・プレテストについて ・教材、指導形態について ・講師のローテーションについて	クラス分けについて。 どのレベルを対象とするか？ カリキュラム概略決定 教材の選択

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称;HOPE 日本語学習室2
- ② 開催場所;広島 YMCA 専門学校(旧 広島 YMCA 専門学校 言語コミュニケーション科)
(広島市中区八丁堀7-11 2F)
- ③ 学習目標;日本語を学ぶ機会に恵まれない人たちに 日本語学習のきっかけを与えて
修了後、進学、あるいは就職へと繋いでいく。
- ④ 使用した教材・リソース;「はじめよう!ほんご」「日本語生中継 初中級編 1・2」
「LIVE from Tokyo」他
- ⑤ 受講者の募集方法;①中国新聞、NHK ラジオにて広報を依頼。
②ちらしを広島国際センター、広島留学生会館、公民館などに
置いてもらう。
③21 年度の受講者全員に案内状とチラシを郵送
④日本語指導者・日本語ボランティアにちらしを郵送

⑥ 受講者の総数 56 人

(出身・国籍別内訳 中国(台湾) 33 人(1 人), フィリピン 8 人, ブラジル 3 人
ペルー2 人, ネパール・パラグアイ・アメリカ・カナダ・アイルランド・インド・韓国・
スリランカ・タイ 各1 名)

⑦ 開催時間数(回数) 60 時間 (全 20 回)

日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
①	1月12日 18:00~21:00	3時間	42人	「2011年度 HOPE 日本語学習室出席者数」を参照	教授者2人 通訳者2人	オリエンテーション他
②	1月14日 18:00~21:00	以下 同時間	39人		教授者2人 通訳者2人	以下資料1参照 (コピーファイル)
③	1月19日		35人		教授者2人 通訳者2人 補助者1人	
④	1月21日		34人		教授者2人 補助者2人	
⑤	1月26日		34人		以下同じ	
⑥	1月28日		37人			
⑦	2月2日		32人			
⑧	2月4日		34人			
⑨	2月9日		36人			
⑩	2月16日		32人			
⑪	2月18日		32人			
⑫	2月23日		29人			
⑬	2月25日		28人			
⑭	3月2日		28人			
⑮	3月4日		28人			
⑯	3月9日		24人			
⑰	3月11日		24人			
⑱	3月16日		25人			
⑲	3月18日		28人			
⑳	3月23日		22人			

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
王 微	中国語(中国)	14 年	6回	授業補助 3 回, 通訳 3 回
朴 炫姫	韓国語(韓国)	15 年	3 回	通訳 3 回

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
間野 順子	日本語教室非常勤	日本語教師養成講座修了	18 回	補助者
二口とみゑ	広島市立東浄小学校他 非常勤講師	日本語教師養成講座修了、子どもの日本語教育専門	17 回	補助者 撮影、記録係

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

日本語を学ぶ機会と場所が少ない広島で、昨年「専門家による日本語指導」と銘打って受講者の募集をしたところ、予想外の参加希望があり、生活者の受講が50名を越えた。

初級クラス; 全く日本語が話せないレベルの受講者だったが、20 回目にはスピーチをしてその原稿も平仮名でかけるほどになった。

中級クラス; 日常でのおしゃべりはできるが 敬語を使ったオフィシャルな会話になると難しいレベルの人が多かった。ロールプレイをしたり、3 時間が瞬く間に過ぎてしまうほど楽しく、充実したレッスンだった。講座の最初と最後にテストをしてもらったが、継続者には明らかに学習成果が出た。(テスト結果参照)
大学院のプレゼンテーションで助かったというブラジル人の院生。
夏の「日本語能力試験 1・2 級」を受験希望する人も出ている。

詳細は指導に当たった広島 YMCA 専門学校 専任講師の近藤先生の「総括」(7 ページ)および 23 日のアンケート(現在纏めているところ)を参照いただきたい。

② 学習者の習得状況; 60 時間を休まず継続して学習するということは 特に仕事を持っている人たちにとっては厳しい。然し、初級クラスの人たちは母語ではなく、日本語でのコミュニケーションを取れるようになってきたし、中級クラスの人には 1 級レベルを目指す人も居た。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

今年度も単発的に講座をデザインするのではなく、広島 YMCA 専門学校に再委託することによって、日本語教育の専門家に、カリキュラム作成と指導をお任せした。

学習者にとっては広島市内まで夜 6 時から来るというのは 相当に負担が大きかったと思うが、それでも 熱心に通ってこられた。それは「こんないいクラスは初めて」という彼らの言葉に顕われている。日本語教育の専門家による指導で、3 時間の講座は充実していたし、生き生きしていたし、なにより楽しかった。毎回の授業風景をビデオで撮っておきたいほど、講師も受講生も有意義な 60 時間であった。さらに「学びたい」という意欲を学習者が持たれたことは大きな成果だったと思う。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

昨年の受講生からの PR も手伝ってか、地域のボランティアからの紹介で受講に来る人も多かった。「きちんと日本語を短期間のうちに学びたい」という人たちが 地域のボランティアから送り込まれた。

再委託することで 広島 YMCA にもメリットが会ったと思う。丁度講師の時間が取れる時期

に開催をお願いして、YMCA の空き教室も活用できたし、事務的な手続きは HOPE で、指導は YMCA でという分担が出来たことも いい講座が続けられた要因だと思う。

⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状 ; 60 時間で終わってしまった。

1 回 3 時間は長かった。

b. 今後の課題

- ① 初級レベルこそ 専門家による効率的な指導が必要
- ② 継続して更なる学習時間が必要。
- ③ 遠くから来る人のために その地域での教室が必要。
- ④ 昼間子どもが学校や保育園に行っている間に学習したい人がいる。
- ⑤ 専門家としての日本語教師の確保。

行政で開催する教室では ボランティアがほとんどだが、生活者のためえにもきちんと謝金を出して専門家に指導してもらえる仕組みが必要。

c. 今後の活動予定, 展望

- ・来年度も文化庁の委託事業に申請した。
- ・できるだけ継続した学習時間を確保したい。
- ・ HOPE としても 小人数の目的別の教室を設立したい。

③その他参考資料

- ・ 教材、副教材
- ・ テスト
- ・ アンケート

せいかつしゃ がいこくじん にほんごきょういくじぎょう
2010 年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

報告：広島 YMCA 国際ビジネス専門学校

近藤妙子

日本語授業の総括と課題

1. 学習目的

生活者としての外国人を対象に、初級・中級 2 レベルの授業を以下の目的で行った。

初級者：

- (1) 社会に溶け込むためのコミュニケーションに役立つ表現を会話中心に習得する。
- (2) ひらがな・カタカナを習得し、最低限の情報を収集できるようにする。

中級者：

- (1) より円滑な人間関係が築けるように、自然な言い回しを習得する。
- (2) 日本語での傾聴力、発話力を強化する。

2. 授業内容

クラス概要：1 クラス 20 名定員で 3 時間 20 回の授業を計画した。

内容： 初級：『はじめよう日本語』を主な教材とし、タスクなどの副教材を用いた。

中級：『日本語生中継』初中級編 1・2 を主な教材として、ロールプレイをレベルに合わせて作成し、副教材として用いた

3. 実施状況

(1) プレイスメントテスト

学習者のレベルを見るために、初級教材を基本としたテストを作成し行った。
(テスト問題添付)

初回の参加者が継続参加しない場合もあり、また途中からの参加者もいるため、プレイスメントテストが徹底されなかった。

(2) 授業内容

① 初級

『はじめよう 日本語』の各課 1 セクションを 1 日で進む。

② 中級

『日本語生中継』の各課を 1 日 1 課進む。

* 詳細については別紙 授業報告を参照

4. 全体の総括

初級のレベルではゼロ初級者からある程度学習経験のある初級者まで、幅があっ

た。ゼロ初級者の割合が少なかったために、彼らにとってはやや苦しい授業であったかもしれない。また初級者の中には、日本に長く過ごしている参加者もあり、週2回のペースで初級者の能力をつけること、動機付けを長続きさせることの難しさがあると思われた。

中級レベルでは、人数が膨れ上がり、このレベルの学習者が増えていることを痛感する。ある程度のコミュニケーションはできるが、自然な応答や、スムーズに意向を伝えるなどのストラテジーが不足している傾向があった。それらを少しでも習得できる内容を取りあげた。教材はレベルに合っていたと思われるが、習得しきれない表現もあったように思われる。

初級・中級とも、最初のテストと最終テストを比較したところ、継続参加の学習者には大きな伸びが見られた。中級については2つの試験を受けた参加者全員がかなりの伸び率がみられた。(詳細はテスト結果参照)

5. 課題

2度目のプロジェクトであったので、学習者の予測もでき、体系的に授業内容を組み立てることができた。しかし、初級者・中級者とも学習の目標や、どのような日本語学習を求めているのかという、具体的な展望がなく参加しているような印象を受けた。プログラムの開始前や途中に、参加者と個別に話をしながら、日本語学習に対してどのような意識をもっているのかを聞く時間などがあってもよいかもしれない。そこから、問題点や、困っていることなどを探り、プログラムの内容に反映することができれば、参加者により近づいた内容にできるのではないだろうか。

中級

		1月						2月						3月							
		12	14	19	21	26	28	2	4	9	16	18	23	25	2	4	9	11	16	18	23
番号	国 籍	水	金	水	金	水	金	水	金	水	水	金	水	金	水	金	水	金	水	金	水
1	中国	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
2	中国	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○
3	中国	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
4	パラグライ	○	○	○	○	○	○	○	○												
5	台湾	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6		○	○	○	○	○	○	○													
7	ネパール	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	
8	フィリピン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
9	中国	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	
10	フィリピン	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○		○	○	
11	フィリピン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
12	アメリカ	○		○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
13	スリランカ																				
14	ペルー	○	○	○	○																
15	フィリピン				○																
16	フィリピン	○			○																
17	中国												○	○	○	○	○		○	○	○
18	中国														○	○	○	○	○	○	○

[illegible]

		1月						2月						3月							
		12	14	19	21	26	28	2	4	9	16	18	23	25	2	4	9	11	16	18	23
番号	国 籍	水	金	水	金	水	金	水	金	水	水	金	水	金	水	金	水	金	水	金	水
1	中国	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○								
2	中国	○	○	○	○	○	○														
3	中国	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
4	韓国	○	○	○	○																
5	中国	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○							
6	中国	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										
7	中国	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○
8	中国	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○
9	中国	○	○	○	○	○	○	○													
10	フィリピン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	タイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
12	ペルー	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
13	中国	○	○	○	○	中級へ	○		○	○	○	○	○	○							
14	アイルランド	○	○		○	○			○	○		○	○	○	○		○				
15	中国	○	○	○	○	○	○			○				○							
16	中国	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○		○		○		○	○
17	フィリピン	○	○		○	中級へ															
18	インド	○	○	○	○																
19	フィリピン				○	中級へ															
20	中国	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○
21	中国	○	○	○	○		○		○	○											
22	中国								○	○											
23	中国								○	○		○	○	○	○	○					
24	中国															○	○	○	○	○	○
25	中国																	○		○	